

※予防接種の前に必ずお読みください

# 風しん5期(MRワクチン)定期接種を受ける方へ

「風しんの第5期の定期接種予診票」にご記入のうえ、医師の診察を受けてください。普段と変わった様子があるときは、必ず医師にご相談ください。

風しんの予防接種として、麻しん風しん混合(MR)ワクチンを接種することになります。接種前にお読みください。

## ★麻しん風しん【MR】混合ワクチンについて

麻しんウイルス及び風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。

## ★病気の説明

### ・風しん

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。典型的な風しんは、軽い風邪症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。年長児や成人では関節炎の頻度が高く、予後は一般に良好ですが、血小板減少性紫斑病や脳炎の合併を認めることがあり、まれに溶血性貧血もみられます。血小板減少性紫斑病は大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠20週頃まで風しんウイルスにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる先天性の心臓病、白内障、聴力障害、発育発達遅延などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

## ★麻しん風しん【MR】混合ワクチンの接種目的

風しん5期の予防接種は、今まで公的に予防接種を受ける機会がなかった方を対象に、抗体検査を実施し、十分な抗体がなかった方は定期接種としてMRワクチンを接種できます。

風しん5期の対象となる方は、ほかの年代に比べて抗体保有率が低い状況です。

十分な抗体のない方が予防接種を受けることで、抗体保有率が上昇し、風しんの発生やまん延予防につながります。

## ★麻しん風しん【MR】混合ワクチンの副反応

副反応の主なものは、発熱と発疹です。他の副反応として、注射部位の発赤・腫脹(腫れ)、硬結(しこり)などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、熱性けいれんなどがみられます。アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応が、まれに生じる可能性もあります。

※予防接種を受けたあと、接種局所にひどい腫れ、高熱、ひきつけなどの症状がありましたら、医師の診察を受けてください。厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期の予防接種によるものと認定した場合には、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

## ●予防接種を受けることができない方●

- ・ 明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ・ 重篤な急性疾患にかかっている方
- ・ 麻しん風しん混合ワクチンまたは他の予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーショックを起こしたことがある方
- ・ 上記に掲げる方のほか、医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方
- ・ 生ワクチンを接種してから27日間以上経過していない方  
※生ワクチン・・・水痘ワクチン、おたふくかぜワクチン等

## ●接種を受ける際に、医師とよく相談しなくてはならない方●

- ・ 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などで治療を受けている方
- ・ 予防接種で、接種後2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーと思わせる異常がみられた方
- ・ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
- ・ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ・ ワクチンの成分でアレルギーがあるといわれた方
- ・ 家族等の中に麻しん、風しん、おたふくかぜ、水痘等の病気が流行している環境にある方

## ●接種後の注意●

- ・ 接種後30分程度は、医療機関で様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応がこの間に起こることがまれにあります。
- ・ 麻しん風しんワクチン接種後は、4週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ・ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位はこすらないようにしましょう。
- ・ 接種当日は激しい運動は避けましょう。
- ・ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- ・ 麻しん風しん混合ワクチン接種後、27日以上あけなければ生ワクチン予防接種は受けられません。

### アナフィラキシーとは・・・

通常、接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出るほか、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しい、などの症状やショック状態になるような、はげしい全身反応のことです。